

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『一日一笑』の理念を共有し、日々実践するよう努力している	開所当時の理念であり、フロアに掲示しているが、ただ掲示しているのではなく定期的に利用者と貼り絵等で作成し、利用者から理念の質問もあるので説明し、利用者・職員共に共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加やオカリナのボランティア、子供たちが遊びに来れる場となっている	近所の子供が遊びに来てくれたり、地域のイベントにも参加・場所提供する等地域と協働している。法人の夏祭りには地域から多くの方が訪れ、大好評であった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ちまき作りへの参加呼びかけや、散歩中に近所の方と立ち話をしたり、新聞の発行も行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回、行政・民生員・区長・老人会・子供会等に参加して頂き意見交換を行っている。会議録をいつでも閲覧できる状況にある	先回、会議が不定期開催だったことが課題が上がっていたが、今年度は定期的に開催している。会議時にホーム見学してもらい、ホームの様子を実際に見て、意見交換している。民生委員より、ボランティアを紹介してもらい、サービスに活かした例がある。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や介護相談員の訪問もあるが、相談員の必要性があるのか疑問である	2か月に1回、介護相談員の訪問があり、訪問後の相談員の職員に対する指摘事項を真摯に受け止め、全職員で検討しサービス向上に活かしている。市の担当職員とは何かあれば連絡を取っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠しない努力をし、身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる	身体拘束の研修をしているが、もっと学ぶ機会が必要と感じている。不穏時の対応について話し合っており、一般的にはいけない行為や言葉の拘束を理解している。	禁止となる具体的な行為について学ぶ機会を持ち、様々なケースを取りあげ、全職員が理解し、自由な暮らしを支援するための工夫等、取り組むことを期待したい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加もあり、職員同士お互い注意をし合い虐待防止に努めている	虐待の防止については年1回必ず勉強会を開催している。外部研修参加後には伝達講習を行い、学ぶ機会を設けている。職員はメンタルヘルスの研修も受けており、虐待を未然に防止する取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けたり、家族と話し合いを持ち利用できるよう努めている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にパンフレットや見学により説明をし、入居時は職員2名で面接や説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員を設けている。又面会時に家族と話合っている	受診は家族にお願いしているため、受診の送迎に来てくれる時や電話・面会等で意見を聞いている。利用者がホームでの話を家族にしており、家族からお礼の言葉や意見をもらっている。ぬり絵や折り紙をさせてほしいと家族が持ってきてくれたこともある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で意見交換したり「なんでもノート」を設け記入し、実現している	職員は、管理者に何でも相談できる関係である。要望・意見等思いついたことを記入できる「何でもノート」を活用し、書き込まれた内容に職員がコメントを書き込み意見交換できている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にはあるが努力や実績の評価がされているのか不明である		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自に合った研修を受けられる環境にあり、会議で研修報告を行い共有している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学や研修の受け入れもあり、今後もっと回数を増やしたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・家族より十分話を伺い安心して過ごせるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを尊重し、又出来ないことは一緒に出来るよう支援している		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外泊等で家族と過ごす時間を持つよう呼びかけているがだんだんと回数の減少がみられる	職員は家族の協力があってこそ利用者の生活が支えていけると考えており、家族にはホームに顔出してもらえるように呼びかけている。ホームや家族の役割を認識し、関係作りに努めているが、情報提供・共有が徹底されていない。	利用者の日頃の状態をこまめに報告・相談するとともに、家族・利用者の関係を踏まえつつより良い関係を築いていけるよう支援できることを期待したい。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会の方の面会や、近所のお寺へお墓参りが出来る環境にある。手紙やハガキ年賀状での交流もある	ホームの近所が自宅の方がおり、近所の友人が訪ねてきてくれたり、お寺へ散歩がてら出かけ墓参りしている。年賀状・手紙の返事を書いたり支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を一人にしない様職員が配慮し話のきっかけづくりをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時のお見舞いや、他施設への面会に伺い関係を保つ努力はしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から聞き取りをし思いを把握するよう努力している	入浴時や茶飲み話の何気ない会話の中から意向を汲み取り、「思い付きノート」に記録し全職員で共有し支援につなげている。趣味の大正琴を練習している利用者が居るが、皆で見守り、続けて行ける様さり気なくフォローしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や家族の面会時に聞き把握に努めている	事前面接で細かく聞く様にしているが、入所後も家族の面会時の会話は重要と捉え、把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや記録等で職員同士連携を取り見落とす事の無い様努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行ったり、家族の面会時に聞き把握に努めている	毎月1回担当者を中心に全職員でカンファレンスを行いプランをたてているが、作成後に家族に確認してもらい了解を得ている。見直しは随時行っている。	計画作成前に家族との話し合いを設け意向を聞き、プランに反映させる事が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族の面会時や電話等で話し合いケアプランに反映している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活記録や申し送り等で情報を共有したり、毎月評価しケアプランの見直しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナや踊りのボランティアにより楽しみのある生活を送っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医とし、受診に必要な情報を提供したり医師より助言を受けている	基本的にかかりつけ医の受診には家族が同行している。緊急時の他、定期的に2週間に1回訪問診療を受けている。協力医からは症状の情報や助言をもらい、家族と共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに行き情報収集・交換を行っている。安心して治療に専念できるよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があればすぐに家族や主治医と話し合いを持っている	早期より事業所が対応しうる最大の支援方法について家族と話し合っている。過去に老衰による心不全の利用者を看取った経験もあることから医療発生時は、協力医との連携し家族の意向に添える様支援している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っている。月1回内部研修で話名うこともある。夜間何かあれば近くの理事長が駆けつけてくれることになっている	年1回AED・救命救急の講習を受け、日勤・夜勤に関らず初期対応の重要性は職員全員意識している。家族・医療関係者との連携もマニュアルに添って周知徹底を図っている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。月1回の職員による防災チェックを行っている。日々「もしも」を想定し話し合っている	近来火災や地震が多発しており、マニュアルも見直している。誘導時、部屋のネームプレートを裏返し確認したり、頭部や心疾患の想定で近隣の人々にも参加をしてもらい実践的な取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士注意し合い誇りやプライバシーを大切に言葉かけをしている	人格尊重を基本原則とし、目線を下げた会話に注意している。記録物は離れた所でネームは裏返しにしている。トイレの誘導は静かにそっと、時には筆談で誘う事もある。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合にならない様出来るだけ自分で決められる様働きかけている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や散歩等の時間に決まりはなく自分のペースで過ごして頂きたいと思うが、勤務体制により無理な時もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と服を買いに行ったり、汚れがあれば着替えをし、季節に合ったおしゃれをしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ一緒に食事作りや片づけをしている	ホームで作る野菜や戴きものなど使ったり、買い物と一緒に掛けている。下拵えから食べるまでの一連の作業は、職員と一緒に出来る人は手伝っている。誕生日や行事食等好みの物を作ったり、時々ケーキを焼いたり楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節のメニューや郷土料理など取り入れたり、個々に合わせ嗜好品(ビール)も取り入れている。食事量・水分量のチェックをしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、週1回ポリデントの実施あり		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と声掛けで気持ちよく排泄出来るよう支援している	利用者の様子から敏感に察知し、排泄チェック表を元にあからさまな誘導ではなく周囲に気付かれない等、配慮しながら対応している。夜間は本人本位の自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の牛乳・プルーンの摂取や、ラジオ体操の実施や水分量に注意している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおまかな日程はあるものの希望により、可能な限り入浴して頂いている	入浴好きな利用者には、その日の気分により時間を動かしたりして毎日入浴したり、仲良し同士一緒に入ったり、入浴は楽しく気持ちの良いものとしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じ散歩・入浴・日光浴・軽体操を取り入れたり、室温やリネンにも配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や医師に内容の確認を取り理解に努めている。薬の変更時は変化に注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を活かし手伝いをお願いしたり、パズルや歌・散歩を楽しんでいる。ビールや焼酎の提供もある		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事予定に組み入れたり、天気の良い日は戸外でお茶を飲んだり誕生日に外食をしている。しかし家族との外出が減っている	年間の行事予定で施行している。それ以外、天気や体調を見て薔薇の満開時・コスモス畑等に、自作の稲荷寿司・おにぎりを持って出掛けた。誕生日には外食する事もあり、気分転換・ストレス発散ととらえ積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>高額ではないが自己管理し職員と一緒に買い物に行き支払いを行っている</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話を使用して頂き、手紙の返事もできるだけ出すようにしている</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>傷んだ食堂の椅子を新しくしたり、TVの位置を低くし観やすい様改善した。夏場は熱中症に注意し温度調整に努めた</p>	<p>明るく広い居間は2個の大きなテーブルが置かれ、窓辺や壁には手作りの折り紙、季節感ある絵やイベント時の写真が本日の勤務職員の顔写真と共に貼られている、仲良い同士楽しそうな会話がはずんで居心地良いものとなっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれお気に入りの場所や落ち着く場所がありリラックスしている</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に説明し使い慣れた物を持って来てもらっている。アルバム・CD・絵・本等・・・</p>	<p>明るく大きな窓がある部屋には、使い慣れた品々を持ち込み設置出来る様配慮され、ベッド・布団・机・椅子等持ち込み、家族と話し合いながら、居心地良く過せる様工夫されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々のわかること・できることを活かし張りのある生活を過ごしている</p>		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					